



“～しちゃダメ”がない自由な遊び場
プレーパークってどんなところ？

ボール遊び禁止、大声禁止、など
 近頃、ダメダメ尽くしの遊び場が多いですね。
 その一方で、公園管理者から禁止事項の一部解除
 許可を得て開催しているのが「プレーパーク」です。



プレーパークを楽しくむ五カ条

1. 「汚れは帰る前に落とす」
 子どもに「遊んでいいよ。でも汚さないで」は不可能です。しかし、汚れた服の洗濯は嫌ですね。オスメは、汚れた服や靴を公園の水道で洗濯しちゃうこと。足取り軽く帰れますよ。
2. 「ダメ」と言う前に、深呼吸
 羨ましそうに眺めながら遊び始めない子に「どうして？」と聞く、「ママに怒られるから……」という返答は多いのです。とくに大人の指示を守る子には「このダメは本当にダメ？」と考えてから、声がけしましょう。
3. 「遊びが好きじゃない子はいません」
 野外、それも自然や異年齢が集まる場所、自由に遊んでいいと言われても、どうしてもいいのかわからない子どもも少なくありません。しかし、体験が増えれば子どもは変わります。外で遊ぶ力は、積み重ねで身につきます。
4. 「最初は大人もいっしょに遊んでください」
 とくに小さな子の場合、慣れない場所では大人にいつしよに遊んでもらいがちです。そのときは、どうぞ一緒に遊んでください。何度か通っているうちに、子どもは友だちを見つけて自分から離れていきますよ。
5. 「おもしろかったり感心しているだけでいいんです」
 大人が遊び方を教えたり指示したりすることは、子どもの脳が動くチャンスを奪います。子どもの柔軟性や発想力は、大人とは違います。大人はその違いを、おもしろがったり感心したりしているだけでいいんです。

プレーパークって？

遊

具がある公園とは違い、ロープ、木材、バケツ、スコップなどさまざまな道具類を自由に使って子どもの自由な発想で遊び、時には遊具まで手作りできる遊び場です。発祥は1940年代のデンマークで、スイス、イギリス、ドイツなどの都市を中心に広がり、日本では1979年に東京都世田谷区の羽根木公園から始まりました。1979年といえば、私たちが生まれた時代の前後。そんなにも、前からあるんですね！ 時代は変わっても、子どもが求める遊びの本質は同じ。プレーパーク（別名「冒険遊び場」）は長い時間をかけて、今や日本中に広がりました。NPO法人日本冒険遊び場づくり協会 (<http://bouken-asobiba.org/>) に登録されているのは全国400カ所程度。運営は、地域の大人たちが不定期に開催しているものから、行政がNPO等地域団体に委託して定期開催しているものまで、さまざまです。



土、水、木、風、火。 五感を使って遊び倒す

では、具体的にプレーパークは、どんな場所で、何をして遊んでいるのでしょうか？ 開催場所は、専用の公園、大型公園の一部を使用、竹林や畑などを使用とさまざまです。ただし、土、木、葉、虫、水、火など、自然的な要素で遊ぶことは共通。穴を掘る、掘った穴に枯れ葉を敷き詰めてダイブする、焚き火をする、ブルーシートで風をつかまえる、ウォータースライダーを作るなど、遊び方は自由自在。子どもたちは五感をフルに使い、豊かな発想と想像力で自然とことん楽しんでいます。

危ないことは禁止という風潮の今、プレーパークではなぜこのような遊びができるのでしょうか？ それは、プレーパークには「プレーワーカー」がいるから。プレーワーカーは、遊び道具類を管理しながら、安全かつ子どもたちが思い切り遊べる環境を整える専門職。また、子どもは小さなけがを繰り返しながら自分の身を守るカンどころを体得するので、大人が先回りして子どもがひやっとする体験を取り除くことはしないという、プレーパーク共通の考え方があるからです。

